

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520326

研究課題名(和文) 脱アメリカ化する現代アメリカ文学の諸相

研究課題名(英文) Aspects of De-Americanization of Contemporary American Fiction

研究代表者

藤井 光 (FUJII, HIKARU)

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：20546668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、21世紀のアメリカ文学が「アメリカとは何か」という伝統的な問いから離れ、脱アメリカ化しつつあるという新たな方向性を論じることを目的とした。具体的には、(1)1980年代から1990年代にかけてのアメリカ小説においては、「外部」を自由の場とみなす表現が支配的であったこと、(2)2000年代に登場したアメリカ作家たちの特徴が「寓話性」であり、無国籍な作風を中心としていること、(3)非英語圏出身の作家たちがアメリカ文学に参入することで、「アメリカ」という枠組みそのものが無効化されつつあること、の三点を中心に書籍・論文を発表し、翻訳も合わせて行った。

研究成果の概要(英文)：This study has attempted to discuss a new direction of American literature in the 21st century, namely its detachment from the traditional question of "What is America?" In particular, the areas of focus were (1) fiction in the 1980s and 1990s still retained American impulse in that they share a certain fascination with the "outside," (2) Unlike these predecessors, writers after 2000 have shifted their style from realism to more "fabulist" and non-national mode, and (3) the emerging generation of those American writers who were born outside the U.S. border have questioned the framework of national literature.

研究分野：現代アメリカ文学

キーワード：現代アメリカ文学 脱アメリカ化 非英語圏 寓話 ロード・ナラティブ 災害

### 1. 研究開始当初の背景

本研究を開始するにあたり、それが対象とする21世紀のアメリカ文学の「脱アメリカ化」という主題に関しては、多くの研究が重ねられているとは言えない状況であった。アメリカ文学が多国籍化しているという指摘、あるいは個々の作家におけるグローバル化の影響の指摘は見られたものの、それが体系化された視点で提供されているとは言いがたい。かつ、「現代」をめぐる批評は「ポストモダン」の時代区分に議論が集中しがちでもあり、21世紀に入って文学がどのように変容を遂げつつあるのかについては、あまり関心が払われていない状況であった。

しかし、日本語文学においても、リービ英雄をはじめとして、日本生まれではない作家たちによる作品が続々と登場しつつあるなど、言語と創作をめぐる状況は次第に変化しつつある。とりわけ、グローバル言語の代表的存在でもある英語をめぐる状況を把握し、トランスナショナルな文学のあり方とその問題圏を提示することは、現代アメリカ文学の批評において急務であると言っていいだろう。

### 2. 研究の目的

(1)本研究の一つの柱は、アメリカ文学が21世紀に入って「アメリカとは何か」という主題から次第に離れつつあることを論じることにある。そのために、1980~2000年にかけてのアメリカ小説が、ポストモダン的な手法を活性化させつつも「アメリカ」という主題を捨てず、あくまで更新することに主眼を置いていたことを論じる必要がある。その作業においては、「外部」という、アメリカ的な想像力において根幹を成す概念が、後期ポストモダンの時期に入ってどのような変遷を遂げているのかを見極めることになる。

(2)第二の柱は、21世紀に入って登場した、非英語圏出身の小説家たちが、従来の移民文学にあるような「ルーツ」への視線、あるいはアメリカ社会への適応の問題といった主題から離れ、より無国籍な設定と作風を志向するようになったという論点である。それと同時に、(1)で取り上げた作家たちに続く、アメリカ生まれの小説家たちが、そろって「アメリカ」という主題を迂回するような寓話的な設定を好むという点を合わせ、アメリカ文学の新たな展開を提示することが可能になると考えた。同時に、批評のみならず、それらの新たな試みを翻訳し、あるいは作家たちへのインタビューを行うことで、日本語の読者に広く認知されることも重要である。

### 3. 研究の方法

本研究は個々の作品における試みを横断的に接続することを基本としている。そのた

め、著書・論文においては、具体的な文学テキストにおける「アメリカ」あるいはアメリカ的概念の表現についての詳細な検討を行い、それを他のテキストと関係付けるなかで、共通の論理的な基盤を構築するという手法を採用している。

したがって、研究の方向性を主に国際学会での口頭発表で示し、議論を重ねたうえで、単著、論文あるいは共著書への寄稿という、研究としては比較的オーソドックスな方法を採用している。

また、それと並行して、日本の出版社との連携により、21世紀のアメリカ文学において重要であると思われる作家たちを翻訳紹介し、あるいは著者へのインタビューを発表する機会を持つことにより、一次テキストである文学作品への注目と認知を得ることも目指した。

### 4. 研究成果

(1)「研究の目的」として挙げた二点の双方にまたがる形で、2013年に英語による単著『Outside, America: The Temporal Turn in Contemporary American Fiction』を出版した。それにより、1980年から2000年にかけての、「後期ポストモダン」とも形容される時代における、「外部」というアメリカ的な主題が継続して作家たちの主眼となっていたことを論証した。ただし、「時間」という主題においてそれが追求されることで、空間の拡張というアメリカ国家の力学とは異なる次元での「外部」が構想されている点が重要である、という点を指摘した。取り上げた作家としては、Paul Theroux, Steve Erickson, William T. Vollmann, Stephen Wright, Richard Powers, Denis Johnson, Don DeLillo など、マジョリティに属し、アメリカ文学の正統な後継者とみなされる作家たちである。

そして21世紀に入り、それとはまた異なる形で「外部」を描こうとする試みが、非英語圏出身の作家たちから登場していることを紹介した。アメリカ作家たちと、「外」からの作家たち(Salvador Plascencia など)との文学的対話が、21世紀のアメリカ文学の中心となっていくと思われるという論点をもって、本研究の一つの成果としている。

(2)同時に、「移動」の物語、および「災害」という主題において、日米の現代作家たちがどのような創作を試みているのかも論じ、アメリカ文学とその外の文学的伝統との接点を探る試みを行った。その二つの試みは、雑誌論文、および共著における論文として発表された。アメリカ的な主題が、いかなる形でその外部にある文学と共鳴しうるのかという点に関して考察を深めることにより、アメリカ文学が脱アメリカ化している程度を見極めることが可能になったと言える。

(3)非英語圏出身の作家たちが、移民のルーツやアメリカでの経験からはまた一步離れたところで創作しているという作風、さらには、アメリカ出身の現代作家たちが寓話性をアメリカからの離脱のための手法として利用しているという点については、複数の国際学会報告を行ったほか、具体的な作家たちの小説を翻訳する機会を得た(雑誌『文學界』における連載を含む)。アメリカの国境の内外で進行する創作のあり方について、一つの潮流としてだけでなく、共通の物語的特徴を見出す機会ともなっている。

(4)また、その過程で、「翻訳」という主題が、作家たちの創作においては重要性を増していることが明らかとなった。複数の言語にまたがる創作、あるいは、英語内での発表と受容のみならず、他言語での受容を想定した形で創作が行われることにより、現代文学は着実に翻訳行為に近づきつつある。その論点は、本研究期間が終了した後に追求すべき大掛かりな主題であると思われる。その研究基盤を整理し、またアウトリーチ活動も兼ねて、NHK 出版による『英語で読む村上春樹』のラジオ教材での連載の機会を得て、アメリカ作家における「翻訳」という主題を紹介した(2014年4月号~2015年3月号)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

藤井光。「十字路とアメリカ：リチャード・パワーズと多和田葉子における「交点」の文学について」『れにくさ』(東京大学現代文学芸論研究室)、査読なし、5-2号(2014年)：152-68頁。

[学会発表](計 6 件)

藤井光「男が男を反復するとき：越境作家とマスキュリニティの問題」東京大学言語情報科学専攻シンポジウム「翻訳とジェンダー：越境する文学の時代に」、2014年2月22日、東京大学(東京)

藤井光「アメリカをめぐる遠近法」第57回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム、2013年12月7日、龍谷大学(京都)

Hikaru Fujii. "War and the Contemporary Fabulist Narrative in/out of America." War and American Literature: A Symposium Sponsored by the American Literature Association, 2013年10月12日, Hotel Monteleone, New Orleans, USA

Hikaru Fujii. "Writing and Translating Outside America in Contemporary American Fiction." 東京世界文学会議 グローバル時代の世界文学と日本文学：新たなカノンを求めて、2013年3月4日、東京大学(東京)

Hikaru Fujii. "Literature at Crossroads, or the Outside of Japanese /American Fiction." Crossroads / Carrefours International Conference, 2012年6月7日, Research Centre Cultures Anglo-Saxonnes, Universite Toulouse, France.

藤井光「災害の「いま」をめぐる：物語・戦争・動物」アメリカ学会第46回年次大会部会、2012年6月3日、名古屋大学(名古屋)

[図書](計 8 件)

藤井光(翻訳)、『遠い部屋、遠い奇跡』ダニヤール・ムイーヌッディーン著。白水社、2014年、全309頁。

藤井光(翻訳)、『かつては岸』ポール・ユーン著。白水社、2014年、256頁。

藤井光(共著)、『ノーベル賞にもっとも近い作家たち』青月社、2014年(全248頁)、218-225頁。

藤井光(共著)、『災害の物語学』中良子編、世界思想社、2014年(全336頁)、130-150頁。

藤井光(翻訳)、『大いなる不満』セス・フリード著。新潮社、2014年、全200頁。

藤井光(翻訳)、『神は死んだ』ロン・カ

リー・ジュニア著。白水社、2013年、全240頁。

Hikaru Fujii. *Outside, America: The Temporal Turn in Contemporary American Fiction*. Bloomsbury, 2013年、140頁。

藤井光（翻訳）、『タイガーズ・ワイフ』  
テア・オブレヒト著。新潮社、2012年、  
全382頁。

〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
（雑誌連載）  
「翻訳をめぐる翻訳」（NHK ラジオテキスト  
『英語で読む村上春樹』2014年4月号～2015  
年3月号）（2014年11月号のみ休載）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤井 光 (FUJII, Hikaru)  
同志社大学・文学部・准教授  
研究者番号：20546668

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：